

十和田湖 1000 年会議の具体的な検討体制について

1. アドバイザーの選定（設置要綱第 4 条第 3 項関係）

検討に必要な助言を得るために、以下の 2 名をアドバイザーとして委嘱することとしたい。

【外部有識者】

永原 聡子氏（Deneb 株式会社 共同創業者、アトリエラパズ株式会社 代表取締役）

選定理由：高付加価値な観光地づくりについて幅広い知見とネットワーク、及び実践の経験を有する。

【地域有識者】

小林 徹平氏（株式会社風景屋 代表取締役）

選定理由：地域内外における地域デザイン・景観まちづくりにおける知見及び経験に加え、十和田湖畔休屋地区におけるゲストハウスの運営を行い、日々を十和田湖で過ごしている。

なお、上記アドバイザーについては、地域における実務的な議論と 1000 年会議の議論との連関を図るため、ワーキンググループへの参与も得ることとする。

2. ワーキンググループのメンバー選定の考え方（設置要綱第 7 条関係）

【基本的な考え方】

基本構想（案）において議論が求められるビジョン及びゾーニング、インタープリテーション計画、施設のあり方、推進体制について実現可能性の高い議論を行うため、構成員担当者とともに、十和田湖地域における自然資源を活用した活動の実績を有し、また将来にわたって活動の意思のある者に参画を求めることとする。

十和田湖地域内の各地区のバランスや若手・中堅の参画にも配慮することとする。

【選定方法】

事務局及び構成員の推薦により、メンバー候補をリストアップし、幹事会において決定する。

参考：アドバイザー略歴

永原 聡子氏

DENEB（株）共同創業者 Atelier LaPaz（株）代表取締役

慶応義塾大学法学部卒（法務博士）、コーネル大学ホテル経営学修士号、南洋理工大学経営学修士号（シンガポール）取得。

外資系金融機関（HSBC）の法務部、プロジェクトファイナンス部門を経て、1995年にコスタリカのサステナブルな観光戦略を策定したサステナブルツーリズムの開拓者である La Paz Group の日本法人であるアトリエラパズ（株）を2013年に設立。アトリエラパズは、エシカルラグジュアリーを尊重することに理念を置き、ラグジュアリーホテルの企画・開発支援、セールス&マーケティング、PRまで一気通貫のサービスを提供するコンサルティングサービスを提供。

幼少期、アメリカの現地公立高校、大学院と10年を超える北米在住経験を生かし、本物の日本の魅力をストーリーにのせて伝え、日本の宝を継承することを目的においた欧米の超富裕層向けにトラベルデザイン会社デネブ株式会社を設立。自然遺産・文化遺産に新たな角度から光を当て、唯一無二の体験やストーリーのある旅をデザインしている。

国土交通省・観光庁「上質な観光地整備実行チーム」委員を歴任、文科省・文化庁「上質な観光サービスを求める旅行者の訪日等の促進に向けた文化資源の高付加価値化促進事業」コーチを歴任。環境省、宿舍事業を中心とした国立公園の面的魅力向上検討委員会委員など。

その他、アマンリゾート（ブータン）、リッツカールトン（シンガポール）にて実務経験。

Small Luxury Hotels of the World 日本アンバサダーおよび新規加盟施設審査担当、宿泊施設活性化機構（JALF）理事。

小林 徹平氏

株式会社風景屋代表取締役

神奈川県秦野市出身。早稲田大学、早稲田大学大学院修了。都市計画コンサルタント、東北大学災害科学国際研究所助手、研究員を経て現職。

代表的なプロジェクトとして、ナミイタ・ラボ（2016、グッドデザイン賞）、旧北上川河川堤防に係るデザインおよびデザイン監修（かわまち大賞）、など。